

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	耳鼻咽喉科学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 単位
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	702教室
担 当 教 員	四宮 弘隆				
実務経験とその関連資格	2006年4月より医師として勤務し、2008年より耳鼻咽喉科医として臨床業務に従事している。 現在は神戸大学医学部附属病院耳鼻咽喉・頭頸部外科で音声、頭頸部癌の領域を専門に診療に従事している 耳鼻咽喉科専門医・指導医、頭頸部癌専門医・指導医				
《授業科目における学習内容》					
耳鼻咽喉科学として耳、鼻、咽喉の解剖、生理、疾患を中心に学習し、言語聴覚士として必要な聴覚や音声疾患の知識の基礎の習得を目指す。					
《成績評価の方法と基準》					
授業時に前回授業の復習の内容の小テストを行う。小テストの成績と定期試験の成績を加味して総合成績評価を行う。 定期試験70%+小テスト30%(変更の可能性あり、変更の際には授業の際に通知する)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
教科書 言語聴覚士テキスト 医歯薬出版 (授業では直接は使用しません) 参考図書 病気がみえるvol 13 耳鼻咽喉科 メディックメディア					
《授業外における学習方法》					
予習復習について自分の勉強法で行ってください。					
《履修に当たっての留意点》					
言語聴覚士として今後学んでいく様々な知識の基礎となる内容ですので、しっかり知識を吸収してください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	本講義の目標を理解できる	配布資料		
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション			
第2回	授業を通じての到達目標	耳の解剖や生理機能を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す	
	各コマにおける授業予定	耳の疾患(外耳、中耳)			
第3回	授業を通じての到達目標	耳の解剖や生理機能を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す	
	各コマにおける授業予定	耳の疾患(中耳、内耳)			
第4回	授業を通じての到達目標	耳の疾患を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す	
	各コマにおける授業予定	耳の疾患(内耳)			
第5回	授業を通じての到達目標	前庭の解剖、生理を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す	
	各コマにおける授業予定	小テスト めまいの検査、生理			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	前庭疾患について説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	めまい疾患		
第7回	授業を通じての到達目標	顔面神経疾患について説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	小テスト 顔面神経疾患		
第8回	授業を通じての到達目標	鼻腔副鼻腔の解剖、生理を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	鼻副鼻腔の解剖、生理		
第9回	授業を通じての到達目標	鼻副鼻腔疾患を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	鼻副鼻腔疾患、嗅覚障害		
第10回	授業を通じての到達目標	口腔咽頭疾患について説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	小テスト 口腔、咽頭疾患		
第11回	授業を通じての到達目標	唾液腺疾患について説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	唾液腺疾患、その他		
第12回	授業を通じての到達目標	喉頭の解剖、発声の生理を説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	喉頭の解剖、生理		
第13回	授業を通じての到達目標	喉頭の疾患について説明できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	喉頭疾患、音声障害		
第14回	授業を通じての到達目標	喉頭の疾患について、実際の症例をもとに考察できる	配布資料	テキストの該当範囲に目を通す
	各コマにおける授業予定	喉頭疾患、音声障害についての応用		
第15回	授業を通じての到達目標	耳鼻咽喉科学全体の復習	配布資料	
	各コマにおける授業予定	復習		